

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

【6.1.1】

カリキュラムの編成については、概ね目標は達成されており、2007年度の進捗状況報告以降変更はない。2007年度には新たに文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業等の研究プロジェクト（「9研究活動と研究環境」参照）が採択されており、先端的研究による教育の活性化は順調に進展している。

2007年度は、2009年度の数理科学専攻の開設にともなうカリキュラム再編成について検討を行った。2009年度には学部の学科新設・拡充による教員増もあり、内容的により充実した科目が開講される予定である。

【6.1.4】 【6.1.12】

理化学研究所発生・再生科学総合研究センターとの連携では、2007年度3名、2008年度4名、「SPring-8」との連携では、2007年度6名、2008年度9名の大学院生が指導を受けている。これらの学生に対して教育内容の体系性・一貫性を確保するために、修士論文作成にかかわる「特別実験および演習」以外の科目は理工学研究科で開講している。また、修士論文作成に必要な専門知識の教育については、研究指導にあたっている客員教員による講義を開講している。逆に上記以外の学生に連携機関にある最先端の装置での実験を体験させるために、2008年度にはSPring-8で大学院の実習授業を実施する予定である。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

生命科学専攻については、博士課程後期課程の学位取得要件の明確化及び客観的審査を遂行するためのシステムを確立した（「6.6学位授与・課程修了の認定」参照）。他専攻についても各分野の特性を考慮しながら検討を進めていく。

学内第三者評価

カリキュラムの編成方針や体系性と教育理念・目的との関係については十分整合性があり、それらを通じて、研究科の理念である「基本原理に軸足を置いて先端的な研究を推進し社会貢献できる人材の育成」を達成できると期待できる。

先端的研究による教育の活性化や大学院連携などにおいても一定の実績を上げており、今後の成果が期待できる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

博士後期課程の教育システム・プロセスについて2007年度に「学位取得条件の明確化と審査の客観性を高めるシステムの導入を検討している」とあるが2008年度の記述がない。2007年度より大学設置基準において学位授与基準や研究指導體制の明示が義務付けられているので、早急に整備されたい。